

令和6年度における学長の業務執行状況の検証結果について

○検証の観点

1. 山梨大学の教育研究・経営の最高責任者として優れたリーダーシップを発揮しているか
2. 本学の個性と特色を発揮するための明確なビジョンを示し、それを実現しているか
3. グローバル化社会で活躍できる有為な人材を育成し、世界に発信できる高度な研究を推進しているか
4. 教育研究を通じて、さまざまなニーズに応えつつ社会貢献を推進しているか
5. 構成員の意欲と創意を引き出し、本学の人的資源を最大限に生かしているか

○検証資料等

- ・所信表明書
- ・令和6年度中期目標・中期計画に対する自己点検・評価結果
- ・令和6年度監事監査の結果と評価
- ・面談（令和7年9月18日実施）資料

○検証結果

上記、検証の観点に基づき、検証資料・面談等により検証した結果、令和6年度に係る業務について、以下の注目事項を確認した。

- ・令和7年度の全学共通教育改革及びクオーター制（4学期制）導入に向け、全学共通教育センターを設置するなど体制整備を行ったこと。
- ・「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に伴う拠点施設（ゼロエミッションみらいラボ及びニューロン・グリア クロストークセンター山梨）を整備するとともに、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択され、クリーン水素関連研究支援及び新分野創出・融合研究推進に向けた組織整備を行ったこと。
- ・北里大学と連携して創薬研究を行うことを目的とした「大村記念微生物資源研究フロウティラ」を設置したこと。
- ・地域・社会課題解決に向け、包括的連携協定を2件締結するなど産学官金の連携体制を強化したこと。
- ・人件費増加や光熱水料・物価等高騰に対応するための経費削減を行ったほか、附属病院の経営課題解決に向け関与を深めるなど、経営基盤の強化に努めたこと。
- ・各学域教員との対話の機会を設けたほか、学生広報スタッフによる広報活動を充実させるなど、教職学協働を推進したこと。

以上のことから、大学改革・大学運営に関し、明確なビジョンを持ち、リーダーシップを発揮してその実現に向けて着実な成果を上げていることから、令和6年度における学長の業務執行状況は、総合的見地から良好と判断する。

その上で、以下の事項について、今後更に展開を図ることを期待する。

- ・高い発信力を活かして地域や社会に対する情報発信に努めるとともに、学生の活用のみならず専門人材の登用を検討するなど、更なる広報機能の強化を図ること。
- ・「やまなし地域共創推進機構（仮）」・「社会デザインサイエンス学環（仮）」等の構想の実現に向け、学内構成員との対話を通じて適切に意見を聴取し、反映するなど、引き続き教職学協働を推進した上で取組を進めること。

令和7年9月18日

山梨大学学長選考・監察会議